令和８年度第1回大阪府立阿武野高等学校 学校運営協議会 議事録

■ 日時：令和８年６月 18 日（木） 15 時 00 分～16 時 00 分
■ 場所　阿武野高等学校 校長室
■ 出席者
- ● 会長：　平野 智之
- ● 委員：　丹家 敬　西村 公男　妹尾 弘宣　藤松 昌代　久武 幸永
- ● 事務局　校長：田中 忠一　事務長：西岡 宏二　教頭：吉道 康子
  首席：小磯 昭彦　首席：上坂 卓也　教諭：槻谷 眞砂子

1 開会

会議は事務局より開会が宣言され、続いて校長より挨拶が行われた。
校長は、令和８年度の学校状況について次のように報告した。

- 今年度の入学生は 243 名となり、志願者数は定員を超える結果となった。
- 生徒一人ひとりに対し、教職員が連携して丁寧に対応している。
- 体育大会をはじめとする学校行事は、生徒が全力で取り組み、保護者も楽しめる内容となった。
- 広報活動をさらに強化し、地域との連携を深めながら学校の魅力を発信していきたい。

校長は特に、地域との協働の重要性を強調した。「今まで培ってきた阿武野の良さを最大限に活かし、地域の皆さんと力を合わせて学校を発展させたい」

続いて、委員・事務局の紹介が行われ、平野会長より挨拶があった。
・阿武野高校は生徒確保に苦労していたが、最終的に定員を超えたことを喜んでいる。
・志願者増の背景として、学校の Instagram 発信が影響していると周囲から聞いた。
・SNS 越しでも、学校の良い雰囲気が伝わってくると感じた。
・志願者増は単なる数字の問題ではなく、学校の魅力が外部に伝わった結果だと実感した。
・今後も地域に根ざした学校として、良い点を伸ばしつつ、課題についても意見を交わしながら支援していきたい。

2 令和７年度 学校経営計画について（田中校長）

学校より、令和７年度の学校経営計画の自己評価が報告された。

■（1）授業改善・学力向上の取組

- スモールステップによる達成感の積み上げが一定の成果を上げた。 生徒の理解度に応じて段階的に学習を進めることで、成功体験を得やすくなった。
- ICT 活用授業の増加 Chromebook を活用した授業が定着し、復習しやすい環境が整備された。Google Classroom を活用した課題配信・振り返りが効果を上げている。
- 生徒の興味関心を高める授業づくり 教科内容を生徒の身近な事例と関連づける工夫が進み、主体的な学びにつながった。

■（2）生徒支援体制の強化

- 支援が必要な生徒へのアプローチ研究 授業改善研修や授業見学を通じて、教科ごとの支援方法を共有。研究協議を重ね、個々の生徒に応じた支援の質を高めている。

■（3）国際交流の継続

- 長年の姉妹校であるワシントン州ケントレイク高校との交流を継続して実施している。
- ここ数年、台湾・永春高校とのオンライン交流を継続しているが、今年度は永春高校とも姉妹校提携の可能性を視野に入れている。

■（4）専門コースの充実

- 福祉・保育・スポーツの各コースで体験学習を実施。
- 地域の保育園・支援学校・高齢者施設・障害者施設との交流を継続。
- 実践的な学びを通じて、将来を見据えたキャリア形成につながっている。

■（5）教員の働き方

- 教員の時間外勤務は平均 33.37 時間と依然多い。
- ただし、ストレスチェックの結果は良好で、職場の雰囲気は良い状態を維持している。

3 令和 8 年度 学校経営計画について（田中校長）

学校より、今年度の重点取組が説明された。

■（1）授業改善・学力向上

- 「分かった → できた → やってみよう」の学習サイクルを重視。
- 生徒が自ら学ぶ力を育成し、学力の定着を図る。
- アクティブラーニングの充実、評価方法の工夫を継続。

■（2）キャリア教育の推進

- ライフプランニング（LP）を軸としたキャリア教育を継続。
- 地域企業との連携を強化し、実体験を通じて将来を考える機会を提供。

■（3）生徒指導・安心安全の確保

- 登校指導を継続し、自転車通学の安全確保に努める。
- カウンセリングマインドを持った生徒指導を徹底。
- 多様性を尊重する人権教育を推進。

■（4）部活動の活性化

- 部活動加入率が 50%を下回っており、活性化が課題。
- 高校でしかできない活動の魅力を伝え、参加を促す。

■（5）教員の働き方改革

- 府からの指示により、年間時間外勤務 720時間以内を厳守する必要がある。
- しかし現状では、4 月時点で 100 時間を超える教員もおり、改善が急務。

4 関連報告

● 令和９年度 教科書選定について（上坂首席）
- ５月末より選定作業を開始。
- 新カリキュラムに対応した教科書を選定中。

● 体育大会の報告（槻谷教諭）
- 台風の影響が懸念されたが、全プログラムを実施。
- １年生では「バラエティリレー」 を新設。
- 2年生の「綱引き」では各団とも旗を振って応援する姿が印象的だった。
- 3年生の「全員リレー」では各クラスの寄せ書きの書かれた手作りのバトンをつないで、最後までクラスメイトを応援する様子が見られた。
- 各競技の実況では、放送委員のアドリブが光り、会場が大いに盛り上がった。
- 保護者参加の玉入れも好評で保護者も参加することでの一体感があった。
- 応援団の演技、旗づくりは学年を超えて協力し、懸命に取り組んでいた。（動画で紹介）
- 昨年度よりゴミが少なく、生徒の意識の高さが見られた。

● 広報活動について（小磯首席）

【新入生アンケートより（本校を志望するにあたっての経緯）】
- 入学者 243 名のうち、コース選択を理由に入学した生徒が増加。
- クラブ体験会参加者は 72 名で増加傾向にある。
- インスタグラムの認知度は高いが、ホームページは少し低め。

【今後の広報戦略】
- パンフレットを刷新し、各中学校生徒全員に配布できるよう準備。
- ホームページは７月中旬にリニューアル予定。
- 学校紹介動画を作成した業者に HP、パンフレット作成も依頼し、統一感を出していく予定。

● 「SSW 拠点校」について（吉道教頭）
- R8年度阿武野高校が北摂エリアの SSW 拠点校 に選定された。
- SSW が週 3 日常駐し、教育相談委員会・いじめ防止委員会にも参加している。
- 教育相談員会、人権保健部を中心に生徒支援体制が大幅に強化された。

5 協議

委員より以下の意見が出された。

【学力・授業について】
- 学力は学校で最も重要であり、阿武野高校の「スモールステップ学習」は成果が出ているため継続すべき。
- キャリア教育では「３年後にどう成長するか」という“出口の姿”を中学生・保護者にも示していくことが大切である。
- 主体的な学びには、授業の狙い（目的）を生徒が自分ごととして理解できる形で提示することが重要。
- 教科書の抽象的な目標ではなく、生徒自身の言葉で理解できるように目標を示すことが効果的。

【教員の働き方・業務量】
- 教員の業務量管理は喫緊の課題である。

- 業務量には個人差があり、調整方法の工夫が必要。
- 改善できれば他校のモデルケースになり得る。
- SSW 拠点校となったことは、生徒支援の強化だけでなく教員の負担軽減にもつながる。

【部活動について】
- 部活動は友人関係や成長に大きく影響するため、活発化を期待している。
- 現状、クラブによって成果の見え方に差があり、盛り上がりに課題がある。
- 部活動は「教員の仕事ではない」という流れが全国的に強まり、地域展開が進んでいる。
- 高校選びにおいて部活動は重要だが、指導体制（教員か外部指導者か）は学校によって異なる。
- 部活動の強化には、顧問・地域・外部指導者など“環境が噛み合うこと”が重要。
- 少子化や教員の働き方改革により、従来の運営は難しくなっている。
- 外部指導者や卒業生を活用する形が今後のモデルになり得る。

【PTA・保護者参加の行事について】
- 体育大会の給水スポット・玉入れでは保護者の協力が非常に多く、活気があった。
- 保護者参加型の玉入れは好評だったが、得点をその場で数えてほしかったという要望があった。
- 3 年生保護者として、行事が「最後」になっていく寂しさと学校への感謝を強く感じている。

【ボランティア部・地域連携】
- 地域からボランティア部への依頼が増えているが、部員数と引率教員不足で対応が難しい面がある。
- 地域からは阿武野のボランティア部が認知され、参加を望む声も多い。
- ボランティア活動は生徒の自信につながるため、活動の場が増えることを期待している。

【学校の魅力・卒業生の姿】
- オープンキャンパスでの先輩の体験談が進路選択に大きく影響した。
- 阿武野高校の先生方は一体感があり、地域からの評価も高い。
- 卒業生が地域活動（子ども食堂など）に参加し、つながりが続いている。
- 生徒が楽しそうに学校へ通い、卒業後も活躍している姿が学校の魅力を示している。
- 多様な生徒が参加できるバラエティリレーは、阿武野高校らしい“思いやり”の象徴である。
- 卒業生の言葉や経験を地域に広げることで、学校の魅力がさらに伝わる。

【総括】
- 経営計画に対する意見は前向きなものが多く、この内容で承認してよいと考えられる。

6 閉会

校長より閉会挨拶。
- 阿武野高校の良さを若い教員にも継承し、学校文化を守っていきたい。
- 地域・保護者の支援に感謝し、今後も協力をお願いしたい。

次回予定
- 令和 8 年 11 月 19 日（木） に第 2 回協議会を開催予定。